



武蔵野大学 学術機関リポジトリ

Musashino University Academic Institutional Repository

笛方が語る狂言の音楽

メタデータ	言語: Japanese				
	出版者:				
	公開日: 2018-05-28				
	キーワード (Ja):				
	キーワード (En):				
	作成者: 松田, 弘之, 高橋, 葉子				
	メールアドレス:				
	所属:				
URL	https://mu.repo.nii.ac.jp/records/816				

笛方が語る狂言の音楽

はじめに

三浦(司会) ただいま素敵な笛の音色が聞こえてきま 言って、能の上演前にお囃子方が行う最終調整の演奏です。 言って、能の上演前にお囃子方が行う最終調整の演奏です。 今、お調べを吹かれたのは、今日の講師にお迎えした 森田流笛方の松田弘之先生です。聞き手の高橋葉子先生 は能楽資料センターの研究員で、京都市立芸術大学日本 は能楽資料センターでも客員研究員をつとめている能 伝統音楽研究センターでも客員研究員をつとめている能 な統音楽研究を立る。

笛を吹かれる能楽師です [97頁参照]。一二月にこの雪松田先生は皆様ご承知のように現在、最も素晴らしい

入り、そのご出演を先生にお願いしております。〈朝比奈〉と〈法師ヶ母〉に囃子、つまり楽器の演奏が頂講堂で本センターが狂言鑑賞会を催しますが、上演曲

高 松

橋 田

子 之

葉弘

松田先生の紹介

大学をご卒業されて、この道に入ったとうかがっていま先生は能楽師のお家に生まれた方ではなく、国立音楽

始め、 松田 ることと相成りました(笑)。 だんと自分の耳の中にある音は違うのではないかと思い たからです。私はもちろん西洋音楽が好きですが、だん を作るにはどういうことを学べばいいのかに興味があ は音楽教育を専攻しましたが、これは、音楽を作る、 分の周りの環境にはありませんでした。国立音楽大学で ごく柔らかい音色のする篠笛、そういう日本の楽器は自 興味があって好きでしたが、今吹いております能管や、 ゆる西洋音楽を勉強する大学です。笛は子どもの頃から れません。大学ではどういう勉強をなさったのですか。 そういう意味では少し変わった経歴の持ち主かもし そこにたまたま日本の笛を聞く機会があったこと 現在、この紋付と袴をつけて、皆様の前に登場す 国立音楽大学はピアノのような楽器や声楽、 いわ 曲 ó

作っていらっしゃるのではないでしょうか。

のですね。いうのは大変深いお言葉です。それを追求してこられたいうのは大変深いお言葉です。それを追求してこられた「島橋」自分の耳の中にある音は違うものじゃないか、と

ると申し上げました。

既成の能で使っている笛の譜など先ほど先生は多くの新作・復曲に関わっていらっしゃ

それこそ自分の心から出てくる笛をそのまま表現して、現するとか、演者の型を見てこんなふうに吹こうとか、現するとか、演者の型を見てこんなふうに吹こうとか、言います。先生は作調もなさっていますが、作調以外にの寸法を少し変えたり組み合わせたりすることを作調との寸法を少し変えたり組み合わせたりすることを作調と

松田 通常、能を勤めるときは、どこで何を吹くかということが何百年も推敲されてできあがった、頭付という 新作狂言のときには、舞や登場の音楽も違う認識の仕方をしたり、あるいは、恋を語るシーンですごくロマン ティックなものを求められたりする。そういういろいろ な場面に出くわして、必要に応じて作ってきたものが少 な場面に出くわして、必要に応じて作ってきたものが少 な場面に出くわして、必要に応じて作ってきたものが少な場面に出くわして、必要に応じて作ってきたものが少な場面に出くわして、必要に応じて作ってきたものが少しあるということでございます。

・狂言における笛の役割

能

ん。一言ではとても言えないとは思いますが、いかがで高橋 能と狂言では笛の役割が少し違うかもしれませ

で囃すときは、その曲の部分によって太鼓の方がリード

ちろんあります。

しかし、笛と小鼓と大鼓と太鼓、

四人

しょうか。

種類の舞の音楽です。 き込んでいく音楽。そして中心になりますのは、様々な演奏されます。それと、アシライ笛という、謡の中に吹演奏されます。それと、アシライ笛という、謡の中に吹対峙するワキの登場、あるいは退場に、数々の囃子事が対峙するで音楽。主役であるシテ、あるいはシテと

を演奏します。明ズムに合った謡を小鼓と大鼓がアシラを演奏します。リズムに合った謡を小鼓と大鼓がアシラを演奏します。リズムに合った謡を小鼓と大鼓がアシラうことがありますが、笛は基本的に入りません。 きますけれども、笛はリズムではなく、空気を漂っていう感じがします。旋律を奏でるという点で、その空気を感じがします。旋律を奏でるという点で、その空気を高橋 大鼓・小鼓と太鼓などが拍子・リズムを刻んでいる感じがします。旋律を奏でるという点で、その空気を演奏しまりないで狂言の場合もやはり登場の音楽。退場はあまりないで狂言の場合もやはり登場の音楽。退場はあまりないで

松田 そうですね。舞の中では笛がリードするときがもする役目があるでしょうね。 支配するような力がありますから、やはり笛にはリードく感じかします。 放得を奏てるという点で その空気を

ことがあると思います。ドする、と、それぞれに役割を受け渡しながら演奏するする、あるいは大鼓の方がリードする、小鼓の方がリー

高橋 では、本題である狂言の音楽ですけれども、謡に 高橋 では、本題である狂言の音楽ですけれども、謡に

狂言の囃子を「狂言アシライ」などと言いますが、すべての狂言に囃子が入るわけではありません。狂言の現ですから、大体三分の一ぐらいに入るということでしょうか。狂言には独立して演じられる本狂言の他に、お能の中で演じられる間狂言があります。本狂言はもちろんの中で演じられる間狂言があります。本狂言はもちろんのこと間狂言の囃子も大事なものですね。まず、間狂言の囃子からお話し頂けますか。

来の姿となって登場するためです。
リ物に入るとシテはすぐに装束を替えます。後にその本をほのめかして前半が終わります。中入、つまり幕や作松田 前半と後半に分かれる能では、シテが自分の正体

間

狂言にはとても重要な役割がありまして、前半と後

は、

装束をつけている人たちに知らせる意味もあります。 もうそろそろ語リが終わって後の登場の囃子になると、 気や雰囲気を作る、ということもありますし、実際には、 というものを吹き出す。そのときの笛の役割は、 になります。その問答のある個所から、笛が〔知ラセ笛〕 半の間で、その物語をもう一度語るのです。例えば 通り物語を語り終えた後は、 でしたら井筒の女の物語を間狂言が語る。 いわゆる旅の僧との問答 間狂言が 後の空 分井

ます。 た大規模な間狂言もあります。 ように、時間にすると三○分近い、ストーリー性を持っ 乗って鮒の精霊が出てくると〔舞働〕を舞います。この 取りをする。その中で、 出の仕方があり、これは狂言のボリュームがうんと増え 祝ぎの舞である〔三段ノ舞〕を舞うこともあります。 〈白髭〉という脇能には替エの間という、普段と違う演 脇能の間狂言ですと、その物語をざっと語った後、 竹生島にお参りに来る人たちとお坊さんとがやり 実際の能のように〔早笛〕に 言

高橋

先ほどお話し頂いた〔知ラセ笛〕と言いますの

から夢の世界に誘われるような感じがしてきます。 そこで空気がサッと変わりますね。 現実の語リの 場

松田 そうですね、そういうふうに吹けるといいと思っ

ているのですけれども。

高橋 ね。ただし一噌流では吹かないようですね 単に楽屋に知らせるというだけではありません

松田 と言われたことがあって、それはよく覚えています。 らないと思います。お亡くなりになった一噌幸政先生 在、 が、「僕も一度あの〔知ラセ笛〕を吹いてみたいんだ」 一噲流の方たちは〔知ラセ笛〕は吹いていらっしゃ 元々がどうなのかはわかりませんけれども、 現

狂言の囃子事

高橋 る囃子事があります。そういったものを「能に準ずるも はお能と同じ名前であったり同じような場面で演奏され の三つは、お能にないことは確かです。が、他のものに 悩んだところがあります。〔棒フリ〕〔責メ〕〔シャギリ〕 言の囃子事を表にしました[98頁資料]。この表で少し バラエティに富んだ囃子事ですけれども、

0

だと思います。

りと、お能の囃子とは中身がかなり違っています。く似ていても吹き方が違ったり、鼓や太鼓の手が違ったのかということは一口では言えないのです。譜は大変よの」としましたが、どういう点でどのように準じているの

秘曲もございます。まうのは、あまりにももったいないというような大曲、また、表の欄外に書きましたけれども、表に入れてし

る、そういうものを獅子物といいます。す。あるいは〈望月〉では、宿の亭主が獅子舞を演ずいう曲には文殊菩薩を守護する霊獣の獅子が登場しま松田 ご存知の方も多いと思いますが、能の〈石橋〉と

〈越後聟〉を私は勤めたことがありませんけれど、

紋越

松田

〈獅子聟〉の場合、〔獅子〕の部分は、

笛と太鼓に

れはなかなか上演されない狂言ですが、非常に重要なも舅に格好いいところを見せようと獅子舞を舞います。こ堂家から山本東次郎先生のお家に伝わったと聞いている堂家から山本東次郎先生のお家に伝わったと聞いている後智〉〈獅子聟〉というお狂言があります。その中の藤

〈狸腹鼓〉も稀曲として滅多に舞台で演じられないも

した。その言葉から連想されるような、軽くあしらうといてす。〈釣狐〉はやはり大曲ですが、狸は恐らくそののです。〈釣狐〉はやはり大曲・秘曲がございます。 を楽になります。この〈獅子聟〉と〈狸腹鼓〉はどちらな姿になります。この〈獅子聟〉と〈狸腹鼓〉はどちらな姿になります。この〈獅子聟〉と〈狸腹鼓〉はどちらな姿になります。そういう大曲・秘曲がございます。 も舞が重要です。そういう大曲・秘曲がございます。 も舞が重要です。そういう大曲・秘曲がございます。 もないするとを狂言アシライと申しました。その言葉から連想されるような、軽くあしらうと

いうのとは全然違うものですね。

かいもので、一〇分ぐらいは吹いております。が腹鼓を打ちながら舞う。飄々として軽やかな、少し暖す。また和泉流の〈狸腹鼓〉は笛だけになりまして、狸よる一調一管で、これは能のときと同じ息遣いで吹きま

りません。笛一管のアシライはありますけれども。もあるのですね。お能の場合、そういう編成は絶対にあ子でやる場合もありますが、笛と太鼓の一調一管のこと高橋 〈狸腹鼓〉は笛一管ですし、〔獅子〕のほうは四拍

な田 そうなんです。〈瓜盗人〉などは四拍子でする場合と、笛一管だけのときがあります。ですから、三番立合と、笛一管だけのときがあります。ですから、三番立ら例えば〔狂言神楽〕があるとこれは笛と小鼓だけ、そら例えば〔狂言神楽〕があるとこれは笛と小鼓だけ、そら似えば〔狂言神楽〕があるとこれは笛と小鼓だけ、そら似えば〔狂言神楽〕があるとこれは笛と小鼓だけ、それかる場では私一人になる。そういうことは四拍子でする場

松田 そうですね。

高橋

狂言に関して言えば笛の出番が一番多いかもしれ

ませんね。

笛の唱歌

に言葉にして覚えるということですね。 高橋 鶯の鳴声を「ホーホケキョ」という言葉に置き換えるのを「聞きなし」と言いますが、笛の音もそのようえるのを「聞きなし」と言いますが、笛の音もそのように言葉にして覚えるということですね。

がついている五線譜でしたら、音の高さや長さが書いて松田 そうです。皆様にお馴染みのある、ト音記号など

高橋 にまとまったもの、見て理解するというようなものは、 要がないのです。ですからこの唱歌、今のように体系的 歌う。そういう稽古の仕方ですから、音の高さを書く必 あっても、江戸の頃もなかったのではないでしょうか。 室町の頃はなかったでしょうし、メモ程度に書くことは て、教える側が最初に唱歌を歌い、習う側が真似をして しょうが、昔も今も教える側と教わる側が向 れで一体どうやって歌えばいいんだろうと思われるで ヒョーイ 書いてないことです。ただ、「オヒャ」とか「オヒャイ あります。 狂言の囃子事の唱歌は『森田流奥義録』(森田光春 ヒヒャーリウヒ」と書いてあるだけです。そ 唱歌と五線譜が最も違うのは、 音の高さが ごかい合っ

能の〔中之舞〕と狂言の〔三段ノ舞〕

能楽書林、一九七〇年)にいろいろと載っていますね

り(四行)の譜でできている「地」を繰り返します。狂最も基本的な舞は、「呂・中・干・干中」という四クサは似たところがありますね。お能の〔中之舞〕というの高橋 能と狂言、それぞれの基本的な舞の譜というの

すが、能の〔中之舞〕と大変よく似ています。「呂・中・干・干中」と書いてあることからもわかりま言の基本的な舞の〔三段ノ舞〕の譜にも、上のほうに

歌ってみます(笑)。それから笛で吹いてみます。 離の最初には○印があって、それを「コミ」と言いま す。コミというのは、吹き出す前に息を詰める間のこと です。唱歌では「ン」っというふうに言います。コミは 実際には音がないのですけれども、音が出ているとき以 上にここが大事になります。コミも込みで、コミ込みで

♪唱歌実演〔中之舞〕

♪笛の演奏〔中之舞〕

ぎに舞います。 構成になっております。脇狂言の中入で末社ノ神が言祝狂言の〔三段ノ舞〕は今吹いた〔中之舞〕と同じような

♪唱歌実演〔三段ノ舞〕

けなんです。今度は吹いてみます。ているわけではなくて、少し違う吹き方をするというわ音のない時間が多いと思うのですけれど、これは休息し

♪笛の演奏〔三段ノ舞〕

るということなのです。
くということではなくて、狂言にふさわしい吹き方があで吹く、とあるのですけれども、決して力を惜しんで吹違っています。手付にはよく「小息に吹く」、小さい息このように、能での吹き方と狂言のときの吹き方とは

うくらい、狂言のアシライというのは大事で、しかも吹シライがきちんと吹けたら一人前の笛方じゃないかと思これは私の思っていることですけれども、お狂言のア

き方が非常に難しいと思います。

か辿りつかないのではないでしょうか。らっしゃると思いますけれども、狂言の笛まではなかならっしゃると思いますけれども、狂言の笛まではなかな

吹くと笛がすごくよく鳴るんです。ですから私もそれをな。力を抜く、だけれど体には芯があって、その状態でしていくときに、狂言の笛がすごくいい教材になるからこともあります。というのは、能管を実際に吹く、鳴らこともあります。というのは、能管を実際に吹く、鳴らにともあります。というのは、能管を実際に吹く、鳴られていくと笛がすごくよく鳴るんです。ですから私もそれをなる。

にしていて、非常によい教材になります。何とか能のほうに応用できないかと、日々稽古するよう

高橋 そうですか。どの楽器にも共通しますが、楽器の演奏は脱力ができていないといけないですね。でも体の流奏は脱力ができていないといけないですね。でも体の描も同じなのですね。高橋先生が言われたような、飄々とした、あるいは飄逸な、あるいは軽みというのは高等なした。人は深刻ぶった顔はできますが、その逆はなかなした。人は深刻ぶった顔はできますが、その逆はなかなした。人は深刻ぶった顔はできますが、その逆はなかなした。人は深刻ぶった顔はできますが、その逆はなかなした。人は深刻ぶった顔はできますが、その逆はなかないできません。本人の中に、そういう質があることが大事で、それは逆にすごく難しいことだと思うのです。大事で、それは逆にすごく難しいことだと思うのです。

松田 柔らかい音で打たれますね。さめに控えめに演奏します。

当り推予事 一、登易終

狂言の囃子事 ―― 登場楽

高橋 松田 高橋 て天降って来るときの囃子事です。昨今は「天降り」と おシテが登場するときも〔下リ端〕で登場します。 きなどに〔下リ端〕を使いますし、大曲の りに包まれて天上から降りてくる、そういうものです。 なことですけれど、本当は天人が美しい音楽と芳しい香 いうと、非常にネガティブな、新聞の社会面に出るよう や〈吉野天人〉など、天女や天人がふわふわと雲に乗っ お狂言でも例えば若菜摘みの娘たちが登場してくると 〔下リ端〕はいろんな曲に使われています。 〔下リ端〕というのは、能のほうですと〈西王母〉 次に能と狂言の〔下リ端〕を比べてみます。 〈枕物狂〉の 大変

のなんです。狂言の登場で吹くときには、音をあまり長松田 そうですね。元来〔下リ端〕は、ゆったりしたも明るくて賑やかな調子ですね。

く引かないで、切るようにして吹いていきます。

が基本です。大小太鼓も掛ケ声を軽くかけ、音も割合小

れは笛だけでなく大小太鼓も同じことでして、狂言の場

軽みが必要というお話を頂きましたけれども、こ

原則として三地という非常に簡素な手を繰り返すの

味では一番大切ではないかと思います。

戸

、から引きます。仕事が終わりましたので、その後に

三クサリの繰り返しになっていて、狂言ではこのように高橋 能の〔下リ端〕が四クサリなのに対して、狂言は

第〕や〔一声〕ですね。笛は「ヒ」だけ。

短くなることが多いのです。その最たる例が狂言の

次

松田 そうですね。少し演奏してみます。

終わりました。(会場笑)

♪笛の演奏〔次第〕〔一声〕

高橋 ありがとうございました (笑)。

と吹くわけです。 と吹くわけです。 と吹くわけです。

後[道行]があって、[道行]が終わると囃子方は切り第〕や〔一声〕の囃子があります。山伏が登場し、その〈杮山伏〉や〈梟山伏〉などの山伏物のときに、〔次

すので、仕事はこの一秒で終わりです(笑)。言ったように〔次第〕や〔一声〕の笛は「ヒッ」だけで長々と残らず、舞台から引いてしまうわけですね。今

が、山伏物のとき、私は一時間くらいかけて出かけて国立能楽堂は狂言の申合セも時間を取ってしています

と吹くと、それで仕事は終了してしまいます。いっって、楽屋で三分間お調べをして、舞台で「ヒッ!」

「次第」や〔一声〕の場合は三地を打つだけですね。鼓がいろいろな手組を打つわけですけれども、狂言の高橋 お能の〔次第〕や〔一声〕は、この後に小鼓と大

方や掛ケ声のかけ方があります。 鼓も能のときとは違った、狂言の世界にふさわしい打ちなくて、非常にシンプルな手組を打っていく。大小も太松田 そうですね。能のときのような連続した手組では

狂言の囃子事 ― 〔責メ〕

〈朝比奈〉にはその他、〔責メ〕という狂言独自の囃子 所は能の様式を取り入れていると言えるでしょうね。 もない朝比奈の三郎何某で候」と名ノリます。こうした もない朝比奈の三郎何某で候」と名ノリます。こうした をない朝比奈の三郎何某で候」と名ノリます。こうした いると、「これは娑婆に隠れ をいると、「これは娑婆に隠れ とった。」とない。」とない。「はいると言えるでしょうね。

松田(そうですね。類似したものはありますけれども。事も出てきます。

王が朝比奈を責めるさまを舞仕立てで表すものです。大方がラになります。そこで閻魔様が六道の辻で待ち構がった朝比奈三郎義秀がとても強くて、閻魔様は地獄にかった朝比奈三郎義秀がとても強くて、閻魔様は地獄にすめ落とすことができず、逆に朝比奈を極楽に送り届ける、という内容の曲です。〔責メ〕というのは、閻魔大る、という内容の曲です。〔責メ〕というのは、閻魔大る、という内容の曲です。〔責メ〕というのは、閻魔大のおいたのです。

高橋 〔責メ〕で閻魔大王が責め立てるけれども、朝比高橋 〔責メ〕で閻魔大王が転がされたり、奈はびくともしない。逆に閻魔大王が転がされたり、たう鬼が責めるのを諦めてしまうのですが、〔責メ〕のとう鬼が責めるのを諦めてしまうのですが、〔責メ〕のとう鬼が責めるのを諦めてしまうか。

ともあります。 るいは省略しようと、その時々の演出の仕方で変わるこているものがありますし、あるいはここでもう一回、あない 社言の台本に「ここで責メ」というふうに指定し

高橋

狂言鑑賞会には

〈法師ヶ母〉も演じられますが、

そうですか。大小太鼓が三地の手ばかりを何度も

こで止める、というように、本番前に簡単な打ち合わせるいは、「急げ急げ」という言葉を三回繰り返したらそのでしょうか。それとも何かの型が終わるまでですか。のでしょうか。それとも何かの型が終わるまでですか。 という言葉がありますけれども、 閻楽り返して打っていきます。これも何回と決まっている

らっしゃるわけですね。セと言いますが、まさに申し合わせて、取り決めていれる言いますが、まさに申し合わせて、取り決めてい高橋(なるほど。この世界ではリハーサルのことを申合

をすることがよくあります。

がら吹くやり方をアシライ吹キと言います。ういうふうに吹くかを決めます。このように演技を見なメ〕には拍がありません。閻魔大王の責メの具合で、どメ】には拍がありません。閻魔大王の責メの具合で、どは拍があって、それに乗って笛を吹きますけれど、〔責松田 そうです。先ほどの〔三段ノ舞〕や〔中之舞〕に

譬:て)。」、4。そこで演じられる〔カケリ〕も、じつは〔責メ〕と同じ

松田 〔責メ〕も〔カケリ〕も笛の唱歌自体は同じもの譜を吹くのですね。

を吹きます。

ということです。これが一番難しいかもしれません。 る ている譜は同じもので、吹き方を変えてその表現を違え う〔責メ〕とは、 リ〕と、〈朝比奈〉の閻魔大王を逆に責め落としてしま 欲しい男の心の内の揺れ、 型があったりします。〈法師ヶ母〉の、妻に帰ってきて リ〕になります。〔カケリ〕の中で、 の中で「涙に咽ぶばかりなり」という謡を謡って〔カケ 深く後悔しまして、妻を探して街中をさ迷います。 った勢いで妻を追い出してしまうんです。その後で (法師ヶ母) ということをしています。その場によきように吹く、 は、 内容は随分違うものです。でも、 お酒を飲んで家に帰ってきた夫が、 軽い狂イの場面である〔カケ シオルという泣く 吹い そ

能 の [羯鼓] と狂言の (羯鼓

高橋 は譜自体がかなり違いますね。 容的にも同じですが、 ね。 逆に 譜は同じでも表現によって全然違って聞こえます 〔羯鼓〕という囃子事の場合は、 能の 〔羯鼓〕 と狂言の 同じ名前で内 〔羯鼓〕 で

> ちが、 松田 に作られている能で、非常にうまい形で芸尽くしが盛り です。観阿弥が作った〈自然居士〉 を能に取り込んで様式化したものが、 から説法をしたのではないかと思います。その羯鼓の舞 ないかと思います。この羯鼓を打ち舞うときに囃す音楽 です。恐らく能・狂言の羯鼓はそれを応用したものじゃ ら入って来た雅楽の中での羯鼓は演奏をリードするもの ける小さな鼓で、 〔羯鼓〕と言っています。 中世の有髪の説法僧、いわゆる居士と言われた人た 大道で自ら謡いながら鼓を打って人を集め、 そうですね。 二本の撥で軽やかに打ちます。 〔羯鼓〕 に用いられる羯鼓は腰に これは意外に古いもので は劇的な構成が巧み 囃子事の 〔羯鼓 それ 国 0

す。

を

ちりと段の構成が決められています。 少ないんです。 すけれども、能の中で音楽自体が軽やかなものは意外に 返していく演奏の仕方をします。 〔中之舞〕を天女が舞うときは浮きやかな演奏をしま 〔羯鼓〕はクサリ数が短く、それを何回も何回も繰り 能の 〔羯鼓〕は随分長いんですね。 見計ライで、 それに比べて狂言 型が済む

込まれています。この中に

[羯鼓]

があります。

まで延々と羯鼓を吹く、そういうことをしています。

♪唱歌実演 能の〔羯鼓〕

狂言の譜はだいぶ違います。 ♪笛の演奏 能の〔羯鼓〕

♪唱歌実演 狂言の〔羯鼓〕

♪笛の演奏 狂言の〔羯鼓〕

浮きやかな舞ですね。

いているつもりが、いつの間にか狂言〔神楽〕になってなってしまう恐れが多分にあります。狂言〔羯鼓〕を吹態になっていまして、ちょっと間違えると、違う曲にじ唱歌を繰り返すというのは、吹いているほうも催眠状じ唱歌を繰り返すというのは、吹いているほうも催眠状な言〔羯鼓〕、狂言〔神楽〕、〔シャギリ〕というのは、狂言〔羯鼓〕、狂言〔神楽〕、〔シャギリ〕というのは、

神経を張り詰めて吹いています。

しまうと大変なことですので、そういう意味で、ずっと

高橋 とてもウキウキするメロディですね。

〈鍋八撥〉の囃子事

松田 〈鍋八撥〉は、羯鼓売りが先に取った、市の一番

〔羯鼓〕という舞を、二人が交互に舞うことになります。うが一番いい場所を取ることになります。〔棒フリ〕として埒が明かない。そこで、芸をしてどちらかいいほす。二人とも自分が最初に来たと、目代、お役人に主張いい場所をめぐって、焙烙売りがずるをしかける狂言で

に能と狂言の音楽の本質が隠されています。「一つの音を繰り返すだけのものですが、じつはここ「棒フリ」の笛は、ベホーヒートー、この三つなんで

思うんですね。それは心の内で鳴っているんです。の○は音が出ていません。しかし音は「鳴っている」とつまりコミで、譜にはそれが○で書いてあります。コミー、という前に一つの休符が入ります。この休符が間、実際には、△ホーヒートー ヘホー

♪唱歌実演〔棒フリ〕

とかもしれません。このコミの間があるから、三つの音思うんです。もしかしたら、今日の講座で一番重要なこ日本音楽の隠された本質だと思って頂いて間違いないと音は鳴っていないけれど間をコンでいる時間、これが

ともあります。

ときには時間の関係で、

いきなり本番になってしまうこ

晴らしい音楽だと、私は本気で思っています。 〔棒フリ〕という音楽は、 起承転結ができているんですね。これで完結している る部分、これが「結」になります。三つの音とコミとで 音ではないけれども実際にはコンでいる、間を作ってい 「起」で、「ヒ」が「承」、「ト」が「転」、そして最後に、 世界に誇れるような非常に素

こっと打ち合わせするのです。

という短い音楽が成り立つのだと思うんです。「ホ」

が

高橋 松田 高橋 されました。まさに作曲を志された方だなと思いました。 と一つの休符でできている」と、「一つの休符」にも言及 ら「三つの音でできている」と言うところを「三つの音 今のご説明はとても理論的でしたね。普通でした いや、そんな大それたものじゃないですよ。 〈鍋八撥〉も、 型を見て速くしたりしますね

松田 します。私たちは狂言では一般的に、公演当日の開場前 になったら崩して、というふうな打ち合わせを申合セで 必要なところだけ打ち合わせをする形を取ります。 そうですね。ここの型になったら速くして、ここ

> ない。 すので、 狂 〈鍋八撥〉をそんなにしょっちゅうしているわけでは 言の方たちは お役を頂いて出かけていって本番前にちょこちょ もう体に笛が入っているんです。でも、こちら 〔羯鼓〕 の唱歌を謡いながら稽古しま

は

とを、瞬時に把握しなければいけないのです。もたもた ちりくっついているんです。ぶっつけ本番というとき ですので、舞台で失敗するわけにはいきません。そこが いう怖さがあります。上手くできて当たり前という世界 か、そのときになってみないとわからないという、 しまいます。自分がどのくらいのテンポで吹けばい していると、どんどん足拍子が踏まれていって、ずれて は、おシテがどのくらいの速さで舞いたいのかというこ 特に狂言〔羯鼓〕は、 足拍子などの型と笛とがきっ

松田 高橋 ええ、もたもたしていられないんです。 臨機応変にやらなければいけないのですね 、鍋八撥〉では、 〔羯鼓〕 の場面でも最後にタイミ

狂言の笛の難しいところだと思います。

ングを合わせなければいけないところがありますね。

松田 る。 に格好よくできないのに羯鼓売りの真似をしようとす 同じようにしようとするけれども、自分の体の前に焙 な側転を見せながら幕へ入っていく。焙烙売りもそれと す。狂言の人は大変だなと思うんですけれども、鮮やか 側転させる〔水車ガヘリ〕という型をしながら退場しま 最後は失敗して焙烙を割ってしまうんですね。 薄物の陶器を括りつけていますので、元よりそんな そうなんです。まず羯鼓売りが、ぐるぐると体を

狂言の囃子事 ――〔シャギリ〕

松田 鼓〕から〔シャギリ〕にするか、演技を見ながら吹いて ころです。これも見計ライのものですから、どこで〔羯 るのですけれども、ぴったりと合わなくてはいけないと ヒョー の「ヒ」で突っ伏して焙烙を割るときもあれば、~ ますが、最後のところを〔シャギリ〕の笛に変えます。 ~ ヒ、って吹くときもある。それをその時々で決め それまではずっと狂言〔羯鼓〕を吹いてきており ヒョーラーヒウヒヤロ、で突っ伏して、それか ヒョーラーヒウイヤロ ヒ、

演奏しております。

タイミングを見計ライます。なかなかスリリングなこと

をしなくてはいけないのです。

合いますね。 から横目でそっと見るのでしょうね。よくそれで上手く 高橋 でも、そんなにジロジロと演技を見ていられない

型を盗み見なければいけないのですが、〈鍋八撥〉の場 松田 横を向いて座っているときは、目立たないように

合は開き直るように正面を向いて座ることがあります。

向きに座るというのは決まりごとではないと思います。 正面を向いているものも数多くあります。ですから、横 を描いた古い絵の中には、囃子方が横向きではなくて、 に向き合っていることが多いと思います。ですが、狂言 例えば、脇能の間狂言に囃子が入るときも正面を向いて 囃子入りの狂言のとき、囃子方は横向きに座って内側

と というのが〔シャギリ〕です。お正月に〈末広かり〉が あると、最後に〔シャギリ〕を吹いて、それが終わる 〔シャギリ〕は祝言の笛です。これでめでたく終える、 おシテとアドが笑って笑い留めにする。

ございました。

すね。音数が多いんです。「イ」にアクセントを置いてうので、私は少し低めに歌います。最後がやや難しいでは高いものですし、男の方と女の方では、声の高さが違この唱歌を皆様と歌おうと思います。実際の笛の高さ

頂くと歌いやすいです。

すか。はい、さん、はい。 本日の講座を皆様とご一緒に〔シャギリ〕を歌って締め本日の講座を皆様とご一緒に〔シャギリ〕を歌って締め

○とヤァリトヒヤァ

IJ

○ ホ ○ ホ ヒャ ヒウイヤロ ○ とヤ ァ リ ○ ヒ ヤ リ

ヒ

『橋 めでたく締め括ることができました。今日はありがとうございました。(会場拍手)

松田 長時間おつき合い下さいまして、誠にありがとうに楽しいお話と実演をありがとうございました。

講師のプロフィール

||松田弘之(まつだ・ひろゆき)

る。 五年 日本能楽会会員。 ない信頼を得ており、 古典・新作を問わず、 旋律によって戯曲の中に入り込んでいく氏の演奏は、 ね、 感性の鋭さを受け継ぎながら、長年にわたり研鑚を重 は以下の通りである。「東京の森田流笛方を代表する 第三八回観世寿夫記念法政大学能楽賞受賞。受賞理由 行い、海外公演にも多数出演している。平成二六年、 方、復曲・新作曲への出演と音楽創作・作調を数多く 能楽笛方森田流。 一人として活躍する氏は、師匠であった故田中一次の 〈鸚鵡小町〉〈姨捨〉〈檜垣〉などの大曲を披演する 次 独自の芸域を切り開いてきた。情緒豊かで美しい 大曲、 〈清経・恋之音取〉を披く。〈鷺〉〈卒都婆小町〉 故森田光春に師事。 秘曲の上演に不可欠の笛方としてゆるぎ 国立能楽堂養成課講師 一九五三年 後進の 優れた舞台成果に寄与してい 国立音楽大学卒業。 育成にも尽力している。 (昭和二八) 生。 故田 平成 中

[海菜]

狂言の囃子事 (主なもの)

「不一は拍子に合わないもの。言。曲名の()内は和泉流での名称。笛のリズムの「合」は拍子に合うもの、編成の「小」は小鼓、「大」は大鼓、「太」は大鼓。曲例の間は間狂言、他は本狂

		名 棭	雕成	内 谷	祖 家	レズム 箱の
登場楽		次第	笛小大	山伏、僧、鬼畜などの登場。	論〉〈釣狐〉〈鈍大郎〉 〈朝比奈〉〈夷大黑〉〈宗	К
	K	1祖	笛小大	などの登場。鬼畜、神仙、幽霊、物狂、群衆	毘沙門〉〈通円〉〈髭櫓〉〈朝比奈〉〈法師ケ母〉〈夷	K
	下ご雑	大 大 本 小	場。福神、群衆などが浮きやかに登	植》〈若菜〉〈吹取〉〈夷大黑〉〈歌仙〉〈田	¢п	
		米近	大 谷 大	登場。 社の神、小天狗、精、社人等の 帝王の登場。または間狂言の末	術》〈玉井〉〈氷室〉 閩〈嵐山〉〈鞍馬天(唐相撲(唐人相撲)〉	K
排骨・働車	狂言固有のもの能に準ずるもの	三段ノ舞	大 大 年 小	干形式。 どが舞う祝言性の高い舞。日中 末社の神、百姓、望入りの望な	天》〈道明寺〉〈嵐山〉〈賀茂〉〈白楽敷聲〉〈二人袴〉問《餘酒〉〈曜雕金〉〈引	<□
		张	女 女 个 个	唐人の難。	(唐人相撲)〉 〈茶子味梅〉〈唐相撲	ŲП
		無働	4 大 大 七 十	☆注ち合いの所作を様式的に見せる。 神仏や精の祝福の舞。または打	〈菓争〉 歌〉〈松脂〉〈歌仙〉 〈夷大黑〉〈大黒連	¢п
		カケリ	大 本 小	かを採し求めて立ち回る。放心や興奮の状態で、または何	〈祐善〉 川〉〈金岡〉〈通円〉 〈法師ケ母〉〈名取	K
		李 张	笛 小	雰囲気がある。 鼓がポ、ポと打ち続けて独特の 巫女が鈴を振り神楽を舞う。小		<п
		羯鼓	海	寿ぎや遊興の芸。 羯鼓を打ちながら軽妙に舞う。	囃子〉 〈煎物〉〈鍋八撥〉〈松	Ųп
		棒フリ	細	がら軽快に舞う。長い棒を振りまわして加速しな	〈錦人撥〉のみ	ŲП
		黄×	大 大笛 小	落す場面に演奏。閻魔王や鬼が亡者を地獄に責め	罪人〉〈瓜盜人〉 〈朝比奈〉〈八尾〉〈闖	K
		シャナン	細	ぶ型がある。 浮きやかに吹かれる。左右に飛脇狂言などのめでたい終曲部で	菜〉 〈昆布柿〉〈財宝〉〈若〈末広がり〉〈麻生〉	ᡧ

特殊な囃子事・曲☆注、 森田流笛は〔三段ノ舞〕と同じ譜を一段だけ吹く。

〈狸腹鼓〉・・・ 狸が腹鼓を打ちながら舞う。笛のみ。獅子・・・〈獅子聟(越後犂)〉で聟入に来た聟が獅子舞を舞う。笛太、または笛大小太。早笛・・・ 能〈白髭〉の替問〈道者(勧進聖)〉の大触の登場に吹く。笛大小太。

狂言の囃子事の特徴

能の囃子事よりも

2. 写実的な型や演技に直結したものがある1. 軽快さ、洒脱味、愉楽の要素が多い

笛は音を短く、間をあけて、小さめに軽く吹く。

・狂言固有のものには具体的な演技や写実的な型に即・短く簡素なフレーズのくり返しが基本。

る。 したものが多い。中世祭礼囃子からの由来が窺え

eg. 棒フリ、シャギリ

eg 早笛…二クサリで一巡(能は七クサリ)音楽構造、楽器編成が簡略。

特表 ニュス (新に) ここへで 神楽…笛と小鼓のみ (能は笛と大小太鼓

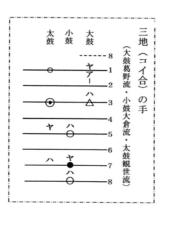
羯鼓…笛のみ(能は笛と大小鼓

その他

正面を向かず、横向きのくつろぎの形で演奏。

演奏のときだけ舞台に出ることが多い。

囃子を省略する場合もある。



・原則的に、三地(コイ合)という基本的で簡素な手大小太鼓は掛ケ声を軽く短めにかけ、軽く打つ。

だけを繰り返し打つ。